

いわむら

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K・K

No.97

(火) 火の元注意，水の事故
交通事故にも気を配り
空巢ねらいにご用心。

(水)

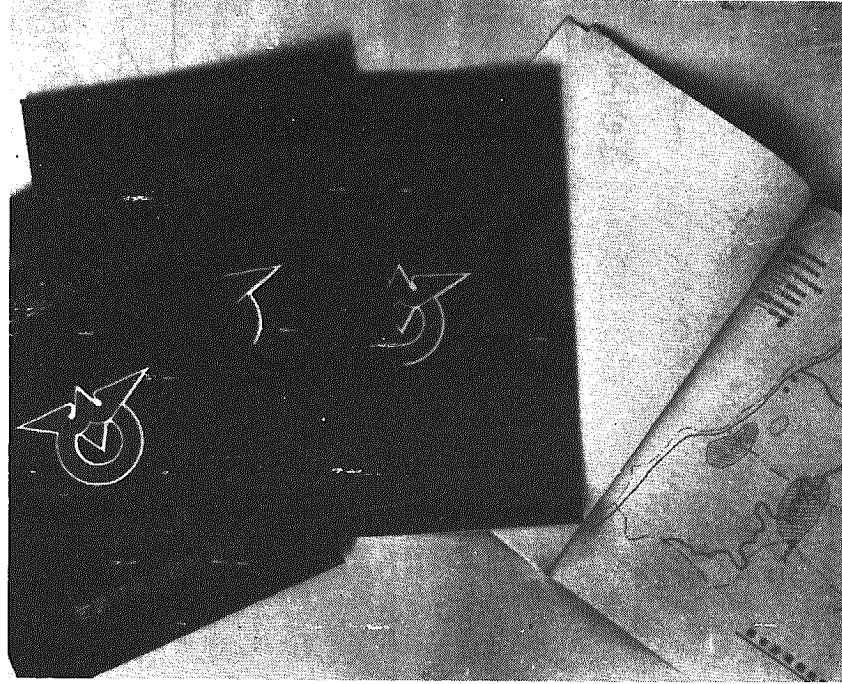
(車)

(盗)

雄大なビジョンを描く

あすの岩室村のために

△総合開発審議会が答申▽



「岩室村の近い将来を、現実の基礎の上に立って展望し、郷土発展のビジョンを描く」ことを使命として岩室村総合開発審議会が設置されたのは、昭和四十三年五月のことでした。

審議会の構成は、明日の岩室村を背負って立つであろう。中堅青年層の、しかもなんの公職も持たない、いわゆる無位無官の人材の中から選んだ三十八名の委員と、議会をはじめ、村内の各種機関・団体の代表者及び指導者、並びに報道関係者による顧問・参事となり、全村民・各界注目のうちに審議が開始されたのであります。

審議会は、農林水産部門 教育社会福祉部門・都市計画部門・観光商工部門の四部門にわかれ、部会、全体会議など、二年間に約一〇〇回近い審議を重ねた結果去る三月二十八日、『あすの岩室村のために』と題する小冊子にまとめて、村長に答申されました。(写真は、B5版40ページの答申書)

審議会が、精魂を傾けて作成したこの答申書には、岩室村総合開発の、夢がいっぱい、希望が大きく盛り込まれています。郷土発展のために、大きな役割を果たすであろうことが確信され、各方面から賞讃の言葉が寄せられています。岩室村が課題とすることに對する答申としては、次に、大任を終えて解散した総合開発審議会を代表する、田中四郎会長のあいさつの一節を紹介しましょう。

「今日の設計図が、明日は反古紙にもなるのかという、めまぐるしい時代であるという観点から、「近い将来」に焦点を合わせ、村

の現状と村民の「なまの声を」を基盤として審議検討した。岩室村が課題とすることに對する答申としては、不備不完のものであろうが願わくば村民各位が、「住民参加」の意をもって、この報告書を祖上において、更に建設的で前向きな批判と検討を加えられたたい」と報告書の内容は、次号から逐次、広報いわむらに掲載してご紹介することになります。

ビジョンからプランへ

総合開発企画審議会発足

二年間の努力の結晶として答申された「あすの岩室村のために」。夢と希望にふくらむ報告書。答申書に感られた多くの項目のうち、いくつかはすでに実施に移されたものもあります。更に検討を加え、資料の裏付けをして、実施計画に練り上げなければなりません。

二週間からプランへ
これが、今度新しく設置された「岩室村総合開発企画審議会」の目標です。
四月一日付、二十名の委員が委嘱され、早くも四月八日第一回の会合を持ち、まず会長・副会長などの役

- 員構成を終り、いよいよ近く本格的な審議に入る運びになりました。
- 村民のみなさんの、ご声援とご協力をお願いいたします。
- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 会長 | 田中 四郎 | 副会長 | 山崎 敏英 |
| 副会長 | 佐藤 幸男 | 委員 | 棚橋 貢 |
| 委員 | 三富 新一 | 委員 | 遠藤福太郎 |
| 委員 | 藤田 幸一 | 委員 | 阿部 修平 |
| 委員 | 坂下 恵一 | 委員 | 田中 勝義 |
| 委員 | 金子 勝衛 | 委員 | 鈴木 鴻司 |
| 委員 | 月岡 登 | 委員 | 岡崎 信雄 |
| 委員 | 金子 金弥 | 委員 | 信栄 |
| 委員 | 菅井金四郎 | 委員 | 斎藤 清 |
| 委員 | 大越 正己 | 委員 | 早川喜三郎 |